

木造軸組工法中大規模建築物の許容応力度設計（2024年版）

目 次

第1章 構造設計の考え方と適用条件

1.1 構造計算ルートと法的位置づけ	3
1.1.1 建築基準法の規定による分類.....	3
1.1.2 規模等による建築基準法上の分類.....	3
1.1.3 構造設計ルート	4
1.2 本書の適用範囲と構法.....	7
1.2.1 本書の適用範囲	7
1.2.2 本書で扱う構法の概要.....	7
1.3 構造計画と構造設計上の注意点.....	10
1.3.1 構造計画の目的と方法.....	10
1.3.2 構造計画の実務上の注意点.....	10
1.3.3 木造軸組工法の構造的特徴	11
1.3.4 他構造との比較における留意点.....	12
1.4 構造計算モデル.....	14
1.4.1 モデル化の概要	14
1.4.2 耐力壁量加算則モデルの適用条件.....	14
1.4.3 各要素のモデル化の考え方	16

第2章 木造軸組工法による中大規模建築物の構造設計法

2.1 使用材料-1（軸材と面材）	18
2.1.1 構造用製材.....	18
2.1.2 枠組壁工法構造用製材等	29
2.1.3 構造用集成材	32
2.1.4 構造用単板積層材（LVL）	39
2.1.5 木質接着成形軸材料.....	43
2.1.6 木質複合軸材料	46
2.1.7 構造用合板.....	47
2.1.8 OSB、MDF等木質系構造用ボード	51
2.1.9 構造用面材として使用できる無機系ボード	55
2.1.10 CLT（直交集成板）	55
2.2 使用材料-2（接合具と接合金物）	70
2.2.1 釘接合	70
2.2.2 ボルト接合	73

2.2.3 ドリフトピン接合	77
2.2.4 ラグスクリュー接合	81
2.2.5 木質構造用ビス接合	84
2.2.6 ラグスクリューボルト接合 (LSB 接合)	91
2.2.7 メタルプレートコネクター	94
2.2.8 ジベル類	96
2.2.9 タイダウン金物	99
2.2.10 グルード・イン・ロッド (GIR 接合)	102
2.2.11 繙手・仕口接合	105
2.2.12 アンカーボルト接合	110
2.3 荷重・外力の算定	119
2.3.1 鉛直荷重	119
2.3.2 風圧力の算定	120
2.3.3 地震力の算定	121
2.4 横架材と柱の鉛直荷重に対する断面算定	122
2.4.1 鉛直荷重による横架材の曲げとせん断に対する断面検定	122
2.4.2 柱の座屈と面外風圧力に対する断面検定	128
2.4.3 柱軸力による土台のめり込みの検定	132
2.5 耐力壁の構造設計法	134
2.5.1 耐力壁の面内せん断性能	134
2.5.2 面材張り耐力要素の詳細計算法で用いる釘配列諸定数の計算	154
2.5.3 面材張り大壁の詳細計算法	169
2.5.4 面材張り真壁の詳細計算法	178
2.5.5 令第 46 条関連の計算	186
2.5.6 水平力に対する耐力壁の許容応力度計算	187
2.5.7 水平力に対する耐力壁周辺の軸組部材の許容応力度計算	191
2.5.8 水平力に対する柱頭柱脚接合部の許容応力度計算	199
2.6 水平構面の構造設計法	218
2.6.1 水平構面の面内せん断性能	218
2.6.2 面材張り床水平構面の詳細計算法	227
2.6.3 面材張り勾配屋根水平構面の詳細計算法	231
2.6.4 水平力に対する水平構面の許容応力度計算	240
2.6.5 横架材接合部の引抜力に対する許容応力度計算	245
2.7 木造ラーメンの構造設計法	249
2.7.1 木造ラーメンの構造特性および構造計算とモデル化の基本遵守事項	249
2.7.2 構造検討手法について手法について	250
2.8 組立梁の構造設計法	253
2.8.1 組立梁の設計法	253
2.8.2 組立梁の変形や各部応力の算出方法	253

2.8.3 計算例	259
2.8.4 設計上の留意点	263
2.9 木造トラス梁の構造設計法	264
2.9.1 木造トラス梁の設計法	264
2.9.2 JIS 仕様山形トラスの設計例	274
2.9.3 引張力を負担する斜材を丸鋼とした平行弦トラスの構造設計法	286
2.10 基礎及びアンカーボルトの構造設計法	298
2.10.1 基礎及びアンカーボルトの構造設計方針	298
2.11 準耐火建築物等の燃えしろ設計	300
2.11.1 関係法令	300
2.11.2 燃えしろ計算	302
2.11.3 接合部の防火措置	304
2.12 ルート 2 の構造計算等	310
2.12.1 層間変形角の確認	310
2.12.2 剛性率の確認	312
2.12.3 偏心率の確認	313
2.12.4 筋かいの負担水平力による応力割増し等	313

第 3 章 試験方法と評価方法

3.1 総則	315
3.2 木材、接合金物の選択方法	316
3.2.1 木材の選択方法	316
3.2.2 接合具と接合金物の選択方法	316
3.3 鉛直構面及び水平構面の面内せん断試験方法と評価方法	317
3.3.1 適用範囲	317
3.3.2 試験の種類	317
3.3.3 試験体の作製及び設置方法	317
3.3.4 試験方法	323
3.3.5 評価方法	324
3.4 接合部の引張・せん断試験方法と評価方法	328
3.4.1 試験の種類	328
3.4.2 試験体部材の選択方法	328
3.4.3 試験体の作製及び設置方法	329
3.4.4 試験方法	335
3.4.5 評価方法	337
3.5 面材くぎ等 1 本あたりの一面せん断特性を算定するための試験方法と評価方法	339
3.5.1 適用範囲	339
3.5.2 試験の種類	339
3.5.3 試験体の作製及び設置方法	339

3.5.4 試験方法.....	341
3.5.5 評価方法.....	341

本書の内容は、令和4年3月末時点での法令等に準じたものであり、予告なく変更されることがある。

本書の内容は、細心の注意を払い作成しているが、いかなる保証をするものではない。設計、施工、工事監理等の業務へのご活用にあたっては、利用者自身の判断と責任において実施していただくものとする。

また、本書の利用に起因して発生する直接、間接、特別又は必然の損害について、発行者、編集委員会は何らの責任を負うことはない。

本書のご活用にあたっては、上記事項をあらかじめご了承いただきたい。